

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
平成29年度	市単	市民総活躍を叶える”元気・交流”拠点整備事業			市民スポーツ室
事業実績額(円)		47,798,120			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	③生涯現役プロジェクト			
	基本的な方向	①健康なばりの推進/世代間交流の促進による地域の元気創造/支え合いの地域福祉の推進/「達成感」や「連帯感」を育む生涯スポーツの推進/多様な生涯学習機会の提供			
	具体的な施策	①「ともに生きる ともに創る 心ふれあう幸せのまち 名張」の実現			
事業期間		平成28年度～平成30年度			
事業の目的		名張市は、フィールドホッケー（以下「ホッケー」という。）の振興によるまちづくりに注力すべく、平成28年度に独自で市民陸上競技場の芝生化の実施や、子どもを対象としたホッケー教室の開催などを行ってきました。 平成29年4月には新たにホッケー協会を設立し、完成したフィールドでは、奈良県の強豪チームの天理大学と南都銀行のエキシビジョンマッチも計画しています。また、ほかに名古屋フラテルホッケークラブや三重クラブ（鈴鹿市）など本市の周辺にはホッケーの有力チームが所在しており、今後こうした有力チームの公式大会や強化合宿を受け入れていくには、既に完了したフィールドの整備に比べ、ミーティングルームの新設やロッカールームの機能向上などの環境整備が必要不可欠となります。 今回の改修では、こうした環境を整えるべく当該競技場の観客席下の模様替えを行い、ミーティングや研修に利用可能な部屋の新設と、これにあわせたロッカールームやトイレの機能向上、さらにはフィールド脇の空スペースを利用してイートインやケータリング、グッズ販売等、大会やイベントに対応できる多目的スペースの新設を行います。その結果、出場選手や観戦客等、これまで見込むことができなかった新たな誘客と地域経済の活性化、施設利用者や使用料収入の増加に大きく寄与し、現状と比較して、施設利用者及び使用料収入について約2倍の増加を見込みます。 また、現在、地方創生推進交付金により進めている「市民総活躍による『なばり元気のモトづくり』プロジェクト」における健康づくり（ソフト事業）の取組の拠点施設として活用することで、より一層の利用向上と市民がいつまでも健康で活躍できる生涯現役のまちづくりを目指します。			
重要業績評価指標（KPI）	指標		基準値（H29.3）	R元年度目標値	R元年度実績値
	拠点施設の使用料収入		162万円	前年比 20万円増	66万円増 （238.7万円）
	拠点施設の利用者数		27,131人	前年比 1,500人増	8,484人増 （48,174人）
	市外からの合宿等の受け入れ数		3件	前年比 10件増	±0件 （65件）
平成29年度の取組概要		・ミーティングルームの新設、ロッカールームやトイレ機能向上、さらには、大会やイベントに対応できるよう、フィールド脇の空スペースを利用して多目的スペースを新設し、新たな誘客と地域経済の活性化、また施設利用料の増加に繋がるよう整備を行いました。			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和2年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	・県外から見た名張の印象は、大阪に非常に近く、交通アクセスがよいこと。郊外型の団地もあり、その中に教育機関も充実しており、子育て支援施策にも力をいれている。また県内のものから見てもうらやましいくらいの自然環境もある。関西圏というのも北勢、中勢にはない魅力であるので、大阪や名古屋の都市圏に向けてアピールすればチャンスにつながるのではないかと。 ・コロナ禍でWebミーティングなどの機会が増えたが、高齢者や障害者こそ時間や移動に縛られないのでその必要性を感じる。今後もネット環境の整備が必要となってくるのではと思う。			
	結果の公表	令和元9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		有 ・ 無 （ 時 期 ： 令和元年8月予定 ）			
総合評価		KPI達成状況は芳しくなったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			